

平成29年度第2回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成30年3月20日（火）14:05～15:35

会 場：北海道立研究所 第2演習室

出席者：協議会委員7名、道立図書館職員13名

傍聴者：0名、（その他、北海道通信記者1名）

議事等

1 議題

（1）平成30年度北海道立図書館運営計画について

（2）新しい北海道立図書館事業推進計画について

2 その他

会議概要 （○～委員の発言 ●～道立図書館職員の発言）

1 議題

（1）平成30年度北海道立図書館運営計画について

伊藤利用サービス部長説明・・・資料1

○

年度末のお忙しい時期にお集まりくださり、ありがとうございます。

それでは議事に入ります。

この後の議事は、「平成30年度北海道立図書館運営計画について」と「新しい北海道立図書館事業推進計画について」、「その他」になっています。

それでは、事務局から「平成30年度北海道立図書館運営計画について」説明してもらいます。

●

説明

○

アスベストの関係で休館を余儀なくされているなかで、休館中に取り組めること、積極的に取り組めることを中心に提案が行われていると思います。

今説明をしていただいたことで、質問・御意見はございませんか。

○

文書館の移転先ってどちらですか。

●

道立図書館の敷地の裏側で、道研と図書館の間の敷地に築山があるんですが、その辺りに文書館が建築されます。

来年度から工事が始まります。それに伴いまして、北方資料室は新しい文書館の方に移動します。

北海道関係の資料を一体的に御覧いただける施設になるということでございます。

今の文書館は赤れんがから移転します。



工事の進捗状況にもよりますが、平成31年の9月頃に建物が完成する予定です。

文書館と図書館が渡り廊下でつながります。新しい建物とレジェンド的な建物が新旧対照表みたいに見えるような感じです。



議会図書室で貸出サービスをやっていたと思うんですが、その辺を拡充していくような感じですか。



議会庁舎も建替になります。

現在の図書室は1階奥のわかりにくい場所にあるんですが、新しい議会庁舎の図書室は2階の一般の方もアクセスしやすい場所に設置されるように聞いております。いまよりも一般道民の方が気軽に出入りできるゾーンのなかに組み込まれているというように聞いております。



議会庁舎の建替はいつやるんですか。



今やっています。(道庁の駐車場を)潰して、今、枠できてますね。



覆いを囲い始めていると思いますね。(今の庁舎は)まだ使えます。



今日は一定道議会の最終日です。



私としては、もっともっと道議会の人に利用してもらえるような(施設にしていきたい)。

新しくなるので、色々御意見を聞きながら充実させていくというのが課題じゃないかなと思うんですけど。



議会図書室の補足ですが、来年度の取組ですが、現在は火曜日と木曜日に当館職員を派遣しておりますけれど、先日議会事務局と打合せをしまして、より充実した議会図書室における図書館サービスに向けて、定期的に担当主幹・主査と情報交換を持つ形になっております。それと合わせて当館の臨時休館の状態が継続されますので、(北海道)150年に向けて議会図書室でも、それに見合った図書室の資料を活用して展示を行いたい、是非私どもと協働したいと仰ってくださったので、当館としても年4回程度、議会図書室で蔵書を公開する予定ですので、新年度はより議会図書室との連携・協働に向けて充実したいと考えております。



建替中も議会図書室はオープンの状態ですか。



完成してから移転して、取り壊すという順番です。



それはいいですね。道立図書館はアスベストでクローズで、議会図書室は建替、文書館は移転となると、せつかくの150年事業の1年間で道立をアピールする場所がすごく限られると思って。



文書館もこちらの建設が終わるまでは赤れんがで業務を行います。



それでは赤れんがで、150年記念事業みたいなものをやるのは可能なんですね。



資料収集計画で平成29年度は「仕事」の支援で、その成果が道立図書館のパスファインダーの「職業について調べる」ということになっているわけですね。

だから、「仕事の支援」というのは、29年度に取り組んできました。

30年度は「地域の活性化支援」。これはパスファインダーとしてできあがる以外に、地域の活性化支援をテーマとして資料を収集するというのは具体的にどういう形になるんでしょうか。例えば、コーナーみたいになるんでしょうか。来年度は無理でしょうから、平成31年度にそういうコーナーみたいなものが作られるんでしょうか。

地域の活性化支援は私も楽しみなので、お聞きしました。



2の課題解決型サービスにおけるパスファインダーの作成というのと、7の資料整備でも資料収集を「地域の活性化支援」で重点化しているというのは、リンクしてやってきておりますので、単に配布物だけではなくて、従来であればビジネス・コーナーとか閲覧室にコーナーがあったんですが、今回は休館中でどのようなことまで展開できるのかというのがあります、その辺を踏まえて次年度以降も活用・収集をリンクしていく予定であります。



今年度の「仕事の支援」というのは、せつかく作られたけど来年度休館でそれを活かすというのは、ある意味十分に行えないんだけど、具体的にどういう形で利用してもらえますか。



先ほどの議会図書室との連携にもつながるんですが、地域の活性化支援の柱の一つに道政サポートサービスという道職員あるいは議員に向けたサービスを一つの柱としておりますので、より充実・連携を密にしていきます議会図書室を通じて実際に使っていただく道職員のニーズとか、議員の方の色々な調査・相談等に役立つよう作成するパスファインダーも含め地域活性化支援を充実したものにしていこうと予定でございます。



ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。

○

先ほど31年秋に文書館ができて、北方資料室がそちらに移るということですが、北方資料室の蔵書ごとですか。

●

全部ではないんですが、かなりの部分の蔵書を新しい文書館の書庫へ移動します。

○

では、こちらの図書館の書庫の収容力は上がるということですね。

●

書庫狭隘化していますが、一定程度の改善はします。

○

こちらの図書館は平成31年3月まで休館ということですが、文書館に北方資料室が移るまで半年あるんですけれども、それを視野に入れたアスベスト工事をされるんですか。

●

アスベスト除去工事自体は来年度一杯で終わりますので、文書館ができる前に工事は終わっています。

半年後に文書館ができてから移るのですが、文書館の資料をもってきて整理するなど相当の準備期間が必要なので、建物ができたからといってすぐオープンというのは難しいですね。文書館・北方資料室がいつオープンするのかという具体的な時期については、まだ正確なことはわからない状況です。

○

前にも聞いたかもしれませんが、文書館が来た場合に北方資料室との資料の扱い方について、(重複している資料を) どうしていくのかというような検討はこれからですか。

●

図書以外のもので重複しているのはございませんので、文書館はそのまま持っています。

例えば屯田兵の貴重な資料とかは文書館にあって道立図書館にはない。文書館になくて道立図書館にある資料など、お互いに補完しながらやっていきます。

ワンフロアにして、色々な方が来られても文書館と図書館の資料を一緒に見られるように利便性を考えながらしているんですね。

文書館の図書については重複しているものもあるので、それについては検討しています。

利用されるものについては積極的に利用してもらうような形で検討しています。

文書館の閲覧者と図書館の利用者は、性格上利用の仕方が違う。

その点をどういうものがあって、突き詰めていけばいいようになるのかというのが一つの課題なので、それについては徐々にしていくところなんですけれど、できるだけ利用者の利便性を大事に考えているところです。

○

今、施設が替わられるということで、こういう施設で（資料の）重複していないとかいった道民への周知というか、そういうこともやっていただきたいと思います。

●
はい、連携しながらやっていきます。

○
レファレンスのことですが、休館になってから札幌市内の図書館から道立の持っている資料を借りたいとかいう問い合わせは、数が増えているんですか。

●
北方資料室は増えていますね。

●
一般は他の図書館も持っている資料が多いので、そんなに大きな影響はないようですね。

○
ということは北方資料室は直接来られないので札幌市内の色々な図書館に行ってレファレンスを受けるけれども、一般の図書については、他の図書館に。

●
おそらくそういうことだと分析しています。

○
直接来られる方もいらっしゃるわけですね。そのときはどういう対応をされているんですか。

●
資料を手にとって御覧いただくスペースは無いんですが、そういうお問い合わせにはお時間をいただいて、調査をして資料を紹介することは可能でございますので、現状の中で工夫しております。先ほど御説明したように、見えないところで他の図書館を頼っていることもあろうかとは思いますが、（直接の）問い合わせに対し資料を紹介することは可能でございます。

○
館の中には入れないけれども、こちらに来て直接サービスする対応は4月から具体的にどういう形になるんですか。来年度に何か新しく変わるといことはあるんでしょうか。

●
仮設事務所ができれば、今の臨時受取窓口よりはスペース的にもある程度色々とできる状態になると思われまので、そのなかでどの程度まで閲覧していただける席を確保できるのかとかいったことを検討しています。

○

来年度は仮設事務所を作って対応していくということでもいいですね。

●

はい。想定されない色々な御要望ですとかと御意見とかいただくことはあるかと思いますが、それについてはその都度、限られた状況の中で対応できるか検討して、その道民の方に不便・不快な思いをさせない形で検討していきたいと思っております。

○

今は休館中でアスベスト工事をやっているけれども、レファレンスで質問を受けたり貸出の依頼を受けたりするとき職員の方は不便無く書庫に入り、いろんなものを取り出したりとかすることができているという認識でよろしいでしょうか。

●

アスベスト（天井材）は剥離したんですけど、飛散している状況にはなっておりませんので、職員の安全は確保されている状況で、閲覧室や書庫で職員は作業しております。

来年度は天井をはがすという工事が始まりますので、その最中は入れませんので、その入れない場所に置いてある本は順次、第2書庫の方などに移して工事中も本が利用できるように、資料を移動しています。

それで予約していただいた本は窓口で貸出しをして、という状況になっています。

○

アスベストのないところに資料を移動して、工事が始まったらそこを書庫として使いながらサービスを継続していくという話なんですね。

完全にサービスが止まるというわけではないということですね。

○

館の研修室を利用した開放事業みたいなのは止めるとか、そういうふうになっていると思うんですけど。

●

資料を展示したり閲覧したりというスペースがとれないものですから。

○

外部に出かけてやるのも、職員の研修も大賛成だし、ここは閉じちゃってこっちに集中すると思っていたけど、ここもやりながらってことですか。

○

完全にそういうことがなくなったから少し時間ができるという訳ではないということですね。

でも積極的に地方に出かけていこうとか、研修をやりましょうということをやっているという案になっていると思います。

そういう意味では大変なんだけど休館の一年間を活かして道立図書館がどうなるべきかって考えながらやっていただく計画になっているんですけど、御意見をどんどん出していたいただいた方が道立図書館としてもいいのではないかなと思います。

○

昨年の秋頃に閉じたときの来館者数は減っているわけですね。

サービスは継続していても、減った来館者数のなかにコアな道立図書館のファンというか、その人達のボリュームというか、来年一年間もあるという想定の中で、それ以外のところでいろんなことができるかなって計画しているわけですか。

○

実際に館の中で閲覧したりとか部屋を使って本を読んだりとかいうのは、できなくなる。だから本当に資料を使いたいという人が来るわけです。

チャンスといえば、道立図書館の利用の仕方、例えば札幌市内でも道内市町村の図書館でもいいけれど、道立図書館にある資料を図書館の間を通じて利用しようとする事について、こういう利用の仕方がありますよって広げるチャンスOfYearでもあります。

それは図書館のあり方としては結構レベルの高い話でもあります。

難しい話ではありますが、図書館はそういうサービスも受けられますよってことをもっとたくさんの人に知ってもらおうというのは必要です。

○

先ほど、パスファインダーをせっかく作ったので展示ができないという話があって、これから市町村支援をやっていくんだと思えば、これを一つのテンプレートとしていろんな市町村版を作っていると思ってるんですね。

その図書館と連携が必要になると思うんですけど、これはあくまで並んでいる場所、参考図書コーナーとか、道立図書館版にしているじゃないですか。

あなたの市町村で統計を調べようとしたらこういうものがあるよとか、職業について調べようとしたらこれがあるよとか、パスファインダーを作るのは職員のスキルが必要なので、全ての図書館で作れるわけではない。でもニーズとしてはある。そのときに例えば統計の基本編・応用編をしっかり道立が作ったのであれば、今度は市町村毎の蔵書に応じた全てがあるわけではないので、ここであるものはここ、ここにはないものは道立に問い合わせれば道立図書館から貸出しを受けられますよとか、そういう形でパスファインダー市町村版みたいなものを作っていってあげると市町村の方は助かるだろうなというのは一つ感じますね。

○

どういふふうこれを活かす、利用することができるかっていうことも積極的に提案するような形で広めていくことが大事です。

●

委員も御存知のように、市町村立図書館にパスファインダーは浸透していつていますので色々な形の規模の応じてパスファインダー、調べ方ガイドは多くの図書館でも作成されております。活用の仕方ですけど、従来行っていたレファレンス体験研修も館がクローズの状態ですので、当方が出向いて研修を行う中で、パスファインダーも提供しながらそれぞれの市町村において、例えば統計というテーマで作るときはこういう形がありますよ、私どものある資料も覚えていただき、さらに御自身の市町村の図書館・室のコーナーにあったパスファインダーを推奨する、市町村において作成していただけるような、研修の中でも積極的に活用できようなテーマを設けるようにして、パスファインダー自体も一道民の方の図書館利用に限ることなく、それぞれの図書館の活性化につながるよう積極的に努めていきたいと思っております。

○

今、参考図書は貸し出ししていただけないんですよ。



今年度から一般資料については、市町村支援の考え方が、各市町村図書館の館内までですけど利用していただけるように、利用を拡大しております。

チラシを作成しております、「みなさんのまちでも道立図書館の辞典等を利用して調べ物ができます」と。今年度は情報が申し訳なかったですけど、早くに利用を拡大して活用していただけるように努めています。



こちらに来て本を出してもらったけれどコピーできなかったって話を聞きました。コピー機がないって文句を言われたんですよ。



今度の事務所には窓口にコピー機を置くっていう計画はありますよね。今までは市町村の図書館でレファレンスで貸してもらってそれをコピーするやり方だったんですけど、今度は事務所の窓口にコピーが置かれることになっているんですよ。



そのように計画しています。今は第2書庫の荷受け口というところに臨時受取窓口を設けさせていただいているのですが、面積的に狭いものですから必要最小限のカウンターと機器類しか置けない状況です。大変申し訳ないですが、そういった事情があるものですから、その場でのコピーについては御勘弁いただいている次第です。



お時間になりましたので、ただ今いただいた皆さんの御意見を反映して、平成30年度北海道立図書館運営計画については、踏まえていただくようお願いしたいと思います。

それでは、次に事務局から新しい北海道立図書館事業推進計画について説明してください。



説明



それでは今の説明について、何か質問や意見等がありましたら、御発言願います。

先ほどの提案の中にも図書館ボランティアのことだとか、研修に力を入れてもらいたいという意見もありました。

それでは御意見等をお願いします。



スケジュールだけ確認したいんですけど、協議会を開催するスケジュールとしては、7月のイメージが出てきたときと11月の協議会…。



7月と11月の協議会で御説明していくこととなります。

委員の皆さまの日程を調整しての開催となりますので、例えば7月の協議会が8月上旬

になるというズレは出てくるとは思いますが、2回の協議会で御説明をいたしまして3月の協議会で決まった形をお示しすることになります。

見ていただくのは計画イメージ、計画素案、計画案というように段階毎に御意見をいただきます。御意見等を踏まえながら、新しい計画を事務局が3月に決定させていただき、決まった計画を3月の協議会で皆様に御説明する流れになっております。

○

先ほどの北方資料のデジタル関係はすごくいい取組だと思います。

ただ、予算が絡みますよね。次の計画でこういうふうなデジタル化を推進していきたいというときに、議会にその予算を経ていく必要がありますよね。

●

計画については方向性は盛り込めますけれど、具体的なものについては計画案に入れられないんですね。

例えば、デジタル化を充実・推進しますということは書けますけれど、具体的には何千万もかかるような何十本の資料をいつまでにやりますということは書くことができないんです。

●

ただ絵はがきだとか、要覧、戦前・戦中にかけての要覧などは、館内で毎日少しずつやっております。

●

大判でなければ館内のスキャナーで年間百点位を、作成しています。

●

それとは別に道立図書館だけの予算でなく他の残った予算をいただいてきてたりとか節約だとか色々な努力をしております。

○

ここの中で出てきた意見を反映・実現させるような努力は館側にもしてもらいますけれども、今言ったように大きな予算が付くようなことを言ってもすぐ実現するという事にはならないですね。

一方では工夫とか、私たちも積極的に参画するとか、みんなの持っている力をフルに発揮できるようにするとかそういうようなことをここで議論して実現するっていうようなことですね。

●

人的資源を活用するという御意見でしたら、たくさん出していただいても結構です。

○

周囲の状況は常勤の図書館司書を置かないとか指定管理になったりしています。

(道立図書館は) 正規の司書が27人もいます。道立図書館がどうあるべきかという議論をしていく中で、自分はこういうことをやりたいんだとか、それをみんなで支えようといった話し合いを一年間していただくことに配慮をしていただくとありがたいですね。それが道立図書館の一番の力になると思います。

○

文書館と一緒にあって新旧の建物が並ぶと、人々の注目を浴びるでしょうし、その中でプロジェクトが走り、このチャンスを逃したら予算は貰えないかもしれない。

そのときに新しい形の北方資料室がこうなったらいいねとか、こんなこともできたらいいねとか半分夢も含めて盛り込みは可能ですね。

○

現代図書館の建物の考え方としては、ここはすごく制約がある。例えば小さな部屋に分かれてはダメだとか、段差があってはダメだとか、冷暖房がちゃんとしているといった意味では残念ながら快適な場所ではないわけです。そういう意味では閲覧したり、資料をゆっくり読んだりする余裕のある場所を、例えば文書館にそういうのができると魅力的なスペースになるはずなので、道立図書館がこのことによってもっと魅力的な場所になることもできるわけですから、そういうようなことはしっかりとって意見を反映していただければと思います。

図書館ボランティアについてですが、周辺では4つの大学があると思いますが、学生ボランティアは学習支援もあって奪い合いみたいになっているから、(学生の確保が) 難しいんだけど、いままで道立図書館で取り組んだことや経験はあるんですか。あるいはそういうことを積極的にやってくれる大学の先生とのつながりがあるとか、そういう目処とか見通しはいかがでしょうか。

●

来年度はつながり、きっかけを持つところから始めたいという意味を込めて情報収集・ネットワークづくりと表現をしたんです。

つながりがないといった大学というのはないです。2・3の関係者に尋ねたところ、今の学生は授業・アルバイト等でとても忙しくて例えばプラスアルファ、単位が取れるとかそういうことがない限り(難しいと聞いています)。

現状のボランティア方は私たちのお手伝い的な部分、例えば本を棚に戻していただくといったようなことが主であったわけですが、学生は道立図書館の存在自体を知らない若者がたくさんいるんだという話もありましたので、まず来年度は私どもを理解していただくというのが一つのポイント。理解した上で今の学生がボランティアという言い方をしますが通常の開館に戻ったときに道立図書館をステージとして、自分達が表現したいもの、一緒に取り組めるものができれば学生の方からも提案をいただきながら、やっていけるようなネットワークをつくる年にしたいと思っています。

○

開館できないので、準備の年ということになるんですね。

○

私事ですが、大学の役職の任期が終了するので、次の会議は後任の者がくると思われます。彼はここ10年、夕張の映画祭に毎年40から50名の学生ボランティアをヶ月ぐらい引き連れてしっかりと役目を果たさせて、夕張のボランティアやって良かったなと確固たる満足度を全員が得たかはわかりませんが、得て札幌に戻ってきているということをして10年やっている人間なんです。これまでの会議で何度も申し上げているようにボランティアの報酬を考えるべきなんです。

ボランティアをやってどういう報酬を得ることができたか、経済的な報酬ということに

はなりません、非経済的な報酬として心の満足だとか達成感、参加感、ネットワークができた、人生の自信を得た等、そういう意味ではまさに彼は夕張10年の経験を通じて、若い人たちにどういうふうに仕向けていけばボランティアをやって良かったなと思ってもらえるかということを知っているのかなと思って。彼が次の会議でここに座っているときにヒントをくれるのかなということを楽しんでいます。以上です。

○

来年の計画の策定スケジュールを説明してもらいましたが、来年度2回会議があってその中で決めていくということになります。

○

先ほどの説明の中で、北海道教育推進計画と北海道子ども読書活動推進計画の2つの上位計画があるんですけど、それと計画期間に1年ズレがありますが、検討するとき上位計画をどういう形で参酌していますか。今回は4年なので、後発で見比べてっていうことができるんでしょうけれど、タイムスケジュール・内容は上位計画との整合性も含めて対応していただけますか。また、パブリック・コメントみたいなものはされるんですか。

●

まず上位計画についてですが、策定作業中は上位計画を横目で見ながら新しい事業推進計画を作っておりますので、一年遅れて計画に乗せられない部分は施策に反映させてというように計画期間は短くなりますが、支障はないと考えております。

パブリック・コメントですが、上位計画はすでにパブリック・コメントをやっており、その上位計画をみて策定しておりますので、パブリック・コメントをする予定はございません。パブリック・コメントはしません、協議会の委員の皆さまの貴重な御意見をいただきながら進めていくというスタイルを採っていきたくて考えておりますので、御協力をお願いします。

○

それでは委員の皆さまからいただいた御意見をもとに作業を進めていただきたいと思えます。

全体を通して御意見はありますか。

無ければ以上を持ちまして予定されていた議題の審議を終了したいと思います。

残念ながら来年度は休館ですけれども、この期間に道立図書館をもっといい状態にしていくために皆さんが検討していただくことを期待したいと思います。

今日はどうもありがとうございます。

●

ありがとうございました。

それでは、最後に館長から一言申し上げ、閉会といたします。

●

第2回北海道立図書館協議会の閉会に当たり、一言お礼の御挨拶を申し上げます。

本日は、平成30年度の運営計画と新しい事業推進計画について説明させていただきましたが、長時間に亘り、熱心な御協議をいただき、誠にありがとうございました。

冒頭、開会の挨拶でも申し上げましたが、アスベスト除去工事の関係から臨時休館が来年度一杯に亘ります。

来年度の運営計画につきましては、こういった特別な状況の下で推進していくこととなりますが、引き続き施策目標の達成に向けて、そういったときだからこそできることをより分け、また組み立てながら、職員一丸となって取り組んでまいります。

また、新しい事業推進計画につきましては、昨年年第1回協議会や本日の協議会等において委員の皆様からいただきました御意見や御提言などを踏まえながら検討を加え、次回7月に開催を予定しております協議会におきまして、計画イメージといった形でお示しし、改めて御意見等をいただきたいと思いますと考えております。

いずれにいたしましても、道立図書館といたしましては、図書館のセンターとしての「図書館の図書館」、参考図書館としての「何でもわかる図書館」、全域サービスの図書館としての「道民みんなの図書館」という3つの運営の基本方針に基づきながら、図書館機能のさらなる充実に努め、広く道民の皆様へのサービスの向上を目指してまいりますので、引き続き委員の皆様には御指導・御助言を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、申し上げます、簡単ではございますが、閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。